

真生会富山病院を受診された患者の皆さま

当院は下記の研究を実施しています。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供することを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名	リバーズ型人工肩関節置換術(RSA)のGrammont type(DELTA XTEND™)に対するBIO併用例の術後成績
当院の研究責任者(所属)	太田 悟 (真生会富山病院整形外科)
他の研究機関および各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	我々は、2016年より導入したリバーズ型人工肩関節置換術の中でGrammont type(DELTA XTEND™)について術後内外旋可動域の制限、肩甲骨下方の骨欠損、体型の小さい肩へのベースプレート(肩甲骨の関節窩に設置する人工物)の固定性等の問題点に対し2020年より上腕骨頭から切除した骨の移植(BIO; bone increased offset)の設置を選択しました。回転中心が過度な外側化とならないようBIOの厚みは5mm程度としました。本研究の目的は、Grammont type(DELTA XTEND™)において、BIO設置以前と、BIO設置後の症例について、その内外旋関節可動域、術後肩甲骨下端の骨欠損(SN; Scapular Notching)の出現、ベースプレートに挿入可能なスクリューの本数について比較検討を行うことです。
調査データの該当期間	・研究実施期間:承認日から2028年1月31日 調査データの該当期間:2016年11月1日から2022年12月31日
研究の方法(対象となる方)	広範囲腱板断裂や腱板断裂性関節症に対するリバーズ型人工肩関節置換術の中、Grammont type(DELTA XTEND™)は2016年から2022年まで腱板大・広範囲断裂に対し同一術者によってなされたものです。 年齢・性別は不問です。
研究の方法(使用する情報)	・患者背景:年齢、性別、術前後のレントゲン、術前の脂肪変性、MRI評価。 ・術前後のJOA(日本整形外科学会肩関節疾患治療判定基準)スコア、UCLA(University of California at Los Angeles)スコア、関節可動域(拳上角度、外転角度、下垂位内旋外旋角度)、筋力MMT(JOAスコア10点評価)、疼痛スコア(JOAスコア30点評価)、術後CTによるSNの出現の有無、base plate(メタプレート)に挿入したスクリューの本数。
試料/情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	使用する情報から氏名や住所等の対象者を直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も対象者を特定できる個人情報は使用いたしません。
本研究の資金源(利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
相談・問い合わせ・苦情	電話:0766-52-6841(整形外科直通電話) 担当者: 太田 悟 (医師)
備考	